

令和4年度事業計画

社会福祉法人 足羽福祉会
理事長 高村 昌裕

私たちを取り巻く環境は、たくさんリスクに追われています。

グローバル化に伴う人口増加がもたらす環境破壊や新たな貧困、格差の問題、新型コロナウイルスをはじめとする新たな感染症の問題、地球温暖化による自然災害の増加や生態系への影響など。国内においても少子高齢化が進む中での深刻な労働力不足、地域コミュニティの担い手不足、ひきこもりや孤立といった新たな社会問題の顕在化など。そんな中AI、IT等の技術革新だけがすさまじい勢いで進化しています。

こうした時代、価値の転換期においては、正解が一つとは限らないからこそ、みんなで考え、話し合い、トライしていただくことが大事ですし、私たち自身の可能性を広げるチャンスでもあります。私たち足羽福祉法人は、「赤ちゃんからお年寄りまであらゆる方が安心して暮らせる地域共生社会の実現」という使命を果たすために、道なき道を切り開きながら着実に歩んでいきます。

当法人では、利用者様中心の福祉事業を行いながら、地域社会も、職員もみんなの幸せが進むようにと、2030年を目途とした長期ビジョンとして、「1.住み慣れた地域で「自分らしく」生きることをの実現、2.共生社会実現に向けて地域、社会の課題解決を図る行動、3.成長し、支え合い、笑顔あふれる職場にする働き方改革」の3点を掲げました。またそこに至るプロセスとして、以下の第Ⅳ期中期事業計画を掲げました。

スローガン；「たのしもう、つながろう、そしてのりこえよう!!」

- (1)本人の「いいところ探し」から夢や願いの実現につながるよう、チームで取り組みます。
- (2)生活困窮、災害、まちづくり等の地域課題に包括的に応えます。
- (3)SDGsの理解を深め、分野を超えた交流、研修を通して具体的に取り組みます。
- (4)新人事管理制度「あすわers」の理解を深め、成長の意欲向上につなげます。
- (5)さまざまな立場の人が活躍し、支え合える職場環境を作ります。
- (6)足羽東こども園の園舎改築を行い、新たな地域拠点として再生します。
- (7)ICT活用により、ペーパーレス化、会議短縮など業務改善を進めます。
- (8)小規模事業所の経営改善をはかり、法人全体の収支を向上させます。

令和4年度は第Ⅳ期中期事業計画の3年目となります。スローガンにもあるように、1人で抱え込まず、みんなでワイワイ楽しみながら、また様々なつながりを広げながら、目の前の課題を一つ一つ乗り越えていきます。2年目まで取り組んだ中での振り返りをもとに、着実に前進していきます。SDGsへの取り組みを始める上で、これまで大事にしてきた「利用者様よし」「地域よし」「職員よし」に「地球よし」「未来よし」を加えた「五方よし」の視点で、私たちは行動していきます。

【法人全体での重点的取組み】

1. 保育、障がい児者支援、介護それぞれの分野での支援計画策定やケース会議において、本人中心の視点（ストレングス、パーソンセンタードケア等）を徹底し、チームで取り組みます。**施策や指標；事例検討会議、援助技術向上の勉強会、虐待防止委員会等権利擁護のための委員会、サービス実践報告会、報告集「思い」の発行**
2. 地域や社会全体の様々な課題（生活困窮、防災、まちづくり等）について、2030年に向けた「足羽福祉社会SDGs宣言」を発信し、具体化した自分たちの行動目標に取り組みます。**施策や指標；全事業所災害時BCP作成、生活困窮者支援の事例検討会、SDGs推進室立ち上げと具体的目標設定、関係者とのパートナーシップ**
3. 新人事管理制度「あすわers」3年目として、制度理解をいっそう進め、女性や障害のある方、高齢者が活躍できる体制を整えると同時に、中途採用職の採用および教育体制の充実強化を図ります。また職員満足度アンケート結果を踏まえ、人材不足をはじめとする現場の課題解決に向けて取り組みます。**施策や指標；あすわers推進会議による課題抽出と改善、人材育成指針の展開（法人研修に1人1回以上参加/年）、2号ジョブコーチ配置、L☆会活性化、柔軟な人員配置のあり方検討**
4. 業務のムリ・ムラ・ムダを排除し、生産性をより向上させることを目的としてICTの積極活用を進め、電子決裁導入、事務処理の簡素化および情報共有化、ペーパーレス化を推進します。**施策や指標；業務改善の見える化（1日10分/人の業務改善、トヨタ式片付けの徹底、現状分析と改善目標の明確化）、権限移譲のルール化**
5. 小規模事業所（足羽東こども園拠点、あすわ児童発達支援センター拠点、パステル拠点、あすわ相談支援事業所リアン拠点、グループホーム美山）の経営安定化に向けた取組みを障がい福祉部門ならびに法人全体で支援します。**施策や指標；経営会議、GM会議での進捗把握と課題検討、事業活動収支計算書の経常経費増減差額が3%以上、資金収支計算書の当期末支払資金残高が2億円以上**

【各拠点事業計画の重点項目】

1. 利用者様と共に

(1)夢や幸せを実現する取組み

- ① 生活の連続性保障（多動、落ち着きのない、環境の変化に影響を受ける）を目的とした「特に気になる子ども」への支援を強化。【啓明児童クラブ】
- ② 「子どもアート展」等の合同行事に児童作品展示で参画し、展示の様子を映像に収め、意欲や励みに繋げる。【啓明児童クラブ】
- ③ 一人ひとりの「いいところ探し」を行い褒める取組みを実施。成長を保護者や本人に伝える。【上文殊児童クラブ】
- ④ 利用者様の個別性（本人らしさ）や自己決定に着眼をおいた保育教育のPDCAの取り組み。（子ども達の視点に立ち、個々の良いところを見つけ、褒め、伸ばしていく支援の実践）。上記視点に基づく事例検討数6件、サービス実践報告会（他団体でも可）での取組みの発表目標数2件。【足羽東こども園】
- ⑤ こども福祉部門合同行事としての「子どもアート展」（福井市美術館 R5.1/26～29）、子育て世代の家族に向けた「公開セミナー」の企画・運営【足羽学園】
- ⑥ 高等部在籍時の早い段階から青年期への円滑な移行に向け、卒後の生活を意識した生活プログラムの実施と、ソーシャルワーカーを中心とした関係機関（出身市町村・児相・学校等）との連携強化。【足羽学園】
- ⑦ 子ども福祉部門合同行事としての「子どもアート展」、保護者や職員対象の「公開セミナー」の企画・運営【あすわ児童発達支援センター】
- ⑧ 小集団クラスだけでなく、医ケア児クラス、プレスクールクラス、個別療育など多彩なメニューを用意し、多様な子どもの成長やニーズに合わせられるように、活動内容やプログラムなどを充実。（児童発達支援）【あすわ児童発達支援センター】
- ⑨ 足羽更生園、あすわ第1、あすわ第2、あすわ第3、相談支援事業所リアン、他機関と連携、システムを活用したケースカンファレンスを述べ36回実施。【スマイル】
- ⑩ ユニバーサルスポーツ（ボッチャ、卓球バレー）活動を毎週1回以上実施、利用者様の健康維持、ソーシャルスキル向上に繋げる。【カラフル】
- ⑪ アウトリーチ型の訪問支援の継続展開（生活支援、家族支援、健康支援など）をし、在宅での仕事提供、少人数での講座支援、リモート支援等のプログラム充実。【パステル】
- ⑫ 「クラブ活動」の強化（講師の受け入れ含む）等日中活動における日課を確立させると共に、利用者個々に合わせた支援プログラムの充実と帰園後や休日等も含めた余暇アイテムの充実。【足羽更生園】
- ⑬ 利用者様の夢や希望の実現や権利擁護の視点に立って、年間1,200件（更新、モニタリング、新規）以上の計画作成。【あすわ相談支援事業所リアン】
- ⑭ 日中をグループホームで過ごす利用者様への支援について、カンファレンスを実施しチームで取り組む。また、グループホームで過ごす時間にアールブリュット展等への出品に向けた創作活動の支援や個別の余暇支援の充実を図る。家庭的な食事、おやつ作り（月1回）も継続する。【あすわ第1】
- ⑮ 自立生活を目指す方（男性1名）及び自立した後も支援するためのチーム作り。【あすわ第1】【あすわ第3】
- ⑯ 日中をグループホームで過ごす利用者様への支援について、カンファレンスを実施しチームで取り組む。また、グループホームで過ごす時間にアールブリュット展等への出品に向けた創作活動の支援や個別の余暇支援の充実を図る。家庭的な食事、おやつ作り（月1回）も継続する。【あすわ第2】

- ⑰ 利用者様の個別性（本人らしさ）や自己決定に着眼をおいた介護の PDCA（計画、チームによる実践、モニタリング）の取り組み。特に高齢者福祉部門として ACP への取り組み（アセスメント充実・人生アルバム制作）を推進（ACP：アドバンスケアプランニング）。上記視点に基づく事例検討数 8 件、サービス実践報告会（他団体でも可）での取り組みの発表目標数 2 件。【愛全園】
- ⑱ 利用者様の個別性（本人らしさ）や自己決定に着眼をおいた介護の PDCA（計画、チームによる実践、モニタリング）の取り組み。特に高齢者福祉部門として ACP への取り組み（アセスメント充実・「私のノート」）を推進。（ACP：アドバンスケアプランニング）。上記視点に基づく事例検討数 10 件、サービス実践報告会（他団体でも可）での取り組みの発表目標数 1 件。【足羽利生苑】
- ⑲ パーソンセンタードケア：サービス提供指針の実践に基づく事例検討数 2 件、サービス実践報告会（他団体でも可）での取り組みの発表目標数 1 件。【グループホーム美山】
- ⑳ 高齢者が住み慣れた地域で尊厳のある、その人らしい生活を自己決定し、継続出来る支援への取り組みに基づく事例検討数を 1 件掲げ、発信できる場で報告。【福井大東包括支援センター】

(2)安心、尊厳を守る取組み

(3) 社会とのよりよい関係づくりを強化する取組み

- ① 担当圏域の地域アセスメントとアウトリーチをさらに進めるために実態把握 300 件以上。その課題を解決できる取り組みを啓蒙・東藤島・岡保で実施。【福井大東包括支援センター】

2. 地域と共に

(1)社会とのよりよい関係づくりを強化する取組み

- ① 専門性と適正配置に資する児童支援員研修への参加（2 名）。【上文殊児童クラブ】
- ② 利用者様と共に福井市の「花いっぱい運動」への参画、スマイル自主製品マット「AmuAmu（あむあむ）」のイベント販売などを通して、障がい学習、障がい理解となる情報発信を実施（和田地区など）。【スマイル】
- ③ 事業所の取組み（利用者様の笑顔や支援内容、プログラム）をホームページ（「施設だより」は月 2 回以上更新）や機関誌「愛道」で積極的に情報発信。また SNS の活用を行う事で地域の皆様とのつながりを促進。【パステル】
- ④ 地元自治会（前波・宿布）との連携協議の下、福井市主管課・消防等を含めた「福祉避難所の在り方会議」に関する学習会の開催（6 月）し、課題等の洗い出し及び解決に向けた取り組み実施。【足羽更生園】
- ⑤ 地区住民の一員として、地区行事（清掃活動、催事等）に参加し交流を図るとともに地域の方に喜ばれるささやかな活動（ゴミ拾い、除雪等）の実践。【あすわ第 1】【あすわ第 2】【あすわ第 3】
- ⑥ 各職員が自分のスキルアップ及び課題克服のための研修を選び、または育成者と話し合い選定し受講。実務に生かしていることを実感！！【福井大東包括支援センター】

(2)地域のために法人資源を活用する取組み

3. 職員と共に

(1) 目標を描き、共に成長する取組み

- ① 前年度スタートした新人事管理制度「あすわ ers」の正しい運用と理解を深め、ラダー、等級基項目、バリュー項目について日常的に上司部下のコミュニケーションが行われる取組みの実施。また、あすわ ers 推進会議において円滑な会議運営と理解浸透を後方支援の実施。
【法人本部】
- ② 専門機関の研修への職員派遣（PECS:絵カード交換式コミュニケーション 2 名・自閉症 e サービス研修等）や、SV（スーパーバイザー）研修を通した取組みを職員間で情報共有し、職員の支援力の向上【足羽学園】
- ③ 利用者様支援の充実を目指し、成年後見制度や認知症の理解、高齢福祉部門との連携による介護技術の習得を進め、高齢利用者支援における専門性の向上。【カラフル】
- ④ 利用を希望するすべての障がいの方に適切な支援を行えるよう、障がい者福祉部門全体で職員の意識改革及び必要な研修の実施。【足羽サポートセンター】
- ⑤ SV(スーパーバイザー)研修での学びの共有や、強度行動障害のある方の支援方法について、職員間で情報共有を図ると共に全職員が連携の基、支援力の向上と支援体制の強化。【足羽更生園】
- ⑥ 法人内の高齢者福祉部門との連携強化によって、利用者様の高齢化に伴う職員の相談力向上。
【あすわ相談支援事業所リアン】
- ⑦ 法人人材育成指針にもとづき、研修プログラム（必修・選択）への参加（1 人年 1 回以上）、計画的な資格取得支援、組織横断チーム（部門職員交流）への参加推進等、職員の学びや成長への意欲をサポート。【愛全園】

(2) 安心して働ける健康経営の取組み

- ① 労務管理は、各拠点相談内容の集約データ化を図り相談体制の充実に努め、社会保険労務士による巡回訪問も継続し、職員の定着に向けた職場環境の改善。また改善状況も随時見える化するなど、職員が安心してはたらけるようハード・ソフトの両面で施策検討。【法人本部】
- ② トヨタ式片付けを実践によるムリ・ムラ・ムダを排除した誰もが働きやすい労働環境づくり。
【足羽東こども園】
- ③ 職員が安心して業務に臨めることを基本とし、適正な人員配置、超過勤務時間削減。
【足羽学園】
- ④ 拠点間業務の隔たりが無い職場環境構築の為、高齢者福祉部門の連携会議・委員会の取組み継続と全拠点の職務分掌の統一。【グループホーム美山】

(3) 共に働く人を呼び込む取組み

- ① ホームページ、SNS 等含め求人活動のツールの充実、各事業所のリクルーターを育成しながら「足羽福祉社会および自事業所の強み」を VI（一貫性を持った法人デザイン戦略）に絡めて PR し、大学 3 年生や短大 1 年生（インターンシップ）に対し訴求し、こども・障がい児者支援・高齢者介護などの専門性を重視した採用（WEB 活用）を実施。中途採用については、関係機関を活用し、多様な人材の受け入れに取組み、また選考プロセスの見直しによる質的強化。【法人本部】

4. 実施プロセス

(1) 法人の価値を高める取組み

- ① SDGs 推進室を立ち上げ、「足羽福祉会 SDGs 宣言で」掲げた取組みと目標達成を 2030 年まで継続的に地域社会へ発信。本年度は法人内職員へ「SDGs 宣言」の理解促進を図り、次期中期事業計画策定の中で、具体的な取組みについて検討。【法人本部】
- ② 上文殊小学校との情報共有、安心・安全・快適な環境整備。【上文殊児童クラブ】
- ③ 新園舎の中で、園児が自由で多様な刺激を受けられる物的環境の整備を行う。特に遊戯室・絵本コーナーなど、自分の好きな遊びに集中できる環境づくりと、既存の遊具や樹木を生かしながら周囲の自然に溶け込み、子ども達がのびのびと遊べる園庭づくりの実施。【足羽東こども園】
- ④ 就労継続支援 B 型事業・・・利用者様平均工賃 30,000 円以上実現。パステルの就労継続支援 B 型事業中止による、利用者様の安心を優先した利用調整。
・ 飲食業務・・・足羽更生園との連携により給食事業の効率化を推進。足羽更生園、愛全園と献立ソフトを共有し、献立作成の合理化、食材一括発注によるコスト改善。また調理プロセスの改善も合わせて給食事業全体の収支改善。【足羽ワークセンター】
- ⑤ 就労移行支援事業・・・法人内外での就職者 4 名輩出。パステルによる就労移行支援事業開設への円滑な事業移行。【足羽ワークセンター】
- ⑥ 障がい者福祉部門における推進施策の一環として、循環型産業の確立を念頭にした魅力的な体験や就労機会が創出できる施設整備に絡めた生活介護事業所の立ち上げ準備（足羽更生園・カラフル協働）【スマイル】
- ⑦ 共生型通所介護サービスの申請により事業開始。【カラフル】
- ⑧ 工賃向上のために新たな施設外就労先を調査して、現在の作業種を再検討。【足羽サポートセンター】
- ⑨ 就労継続支援 B 型事業の再編に向けて足羽ワークセンター及び足羽サポートセンターとの定例会議を開催（職員体制、利用者様・ご家族の意向確認、サービス移行、支援内容等）。【パステル】
- ⑩ 支援拠点の確保・整備及び職員体制検討を進めながら同時に自立訓練のプログラムバージョンアップ、新たな就労移行支援の支援プログラム開発・連携、就労定着支援の支援内容（職場、医療機関等との連携、利用者様・ご家族との相談支援等）の開発を 2 回～3 回/月で定例会議実施し実践。【パステル】
- ⑪ 障がい者福祉部門における推進施策の一環として、循環型産業の確立を念頭にした魅力的な体験や就労機会が創出できる施設整備に絡めた生活介護事業所の立ち上げ準備（スマイル・カラフル協働）。【足羽更生園】
- ⑫ 地域のニーズ、サービス提供状況、法人が事業運営する情報を障害者福祉部門で発信【あすわ相談支援事業所リアン】
- ⑬ あすわ第 3 ひまわりの老朽化について大家と協議し、改修を実施。【あすわ第 3】
- ⑭ 足羽利生苑改修計画に係る高齢者福祉部門チームで、基本となる介護保険事業の構想の事前情報収集を継続積み上げ。福祉総合拠点機能対応は、地域の声の重要性を包括した在り方検討会を法人全体で検討。【足羽利生苑】

(2) 透明性の高いガバナンスを追求する取組み

- ① 理事会、常勤理事経営会議や GM 会議等の開催を行い、専門家（司法書士や社会保険労務士）の助言をいただきながら、外部環境や利用者様へのサービス向上のため内部管理体制を強化。また、監事と常勤理事とのコミュニケーションの場を設け、法人ガバナンス（事業運営に係る

統治)に係る課題の共有。【法人本部】

(3) 外部評価や認証制度を活用する取り組み

- ① PDCA サイクルを土台とするサービスの標準化と質向上の取り組みをもとにした、第4回目となる福祉サービス第三者評価の受審(11月)。【足羽学園】
- ② 福祉サービス第三者評価制度の受信(2回目)。【カラフル】

(4) 合理化と効率化を推進する取り組み

- ① グループウェアを活用した電子決裁、労務管理システムの完全クラウド化及びペーパーレスの実施に向けて、権限移譲、文書起案、供覧、保存等の具体的ルール作りを促進するため、定量目標を掲げ業務改善の見える化を推進。また、運用定着を図るためのフォロー体制を充実。【法人本部】
- ② 令和3年度に学んだ「記録の在り方」を活かし、情報共有の仕組みづくりを構築。【啓明児童クラブ】
- ③ ICT活用による電子決裁、ペーパーレスの実現に向けた、権限移譲、決裁プロセスのルール作り着手。またICT活用のスキル、ノウハウ伝達の体制強化による活用推進。【足羽ワークセンター】【足羽サポートセンター】
- ④ 記録システムや介護周辺機器を見直し、業務のスリム化による現場業務の負担軽減と生産性向上に繋げる。【愛全園】【グループホーム美山】【足羽利生苑】

5. 経営基盤の強化

(1) 資金収支10カ年計画を達成する取り組み

- ① 各事業の報酬体系を最大限に生かすことができるような職員配置や各種加算を取得することで経営を安定化させ、継続可能な事業として基盤整備を実施。【あすわ児童発達支援センター】
- ② 障がい福祉部門の新事業展開に合わせて、法人の資源である既存物件の活用とフレンズみゆきの老朽化問題について協議を継続。【あすわ児童発達支援センター】

法人理念 「共に生き、共に集う、光を求めて」



長期ビジョン ASUWA2030
(1) 住み慣れた地域で「自分らしく」生きることの実現
(2) 共生社会実現に向けて地域、社会の課題解決を図る行動
(3) 成長し、支え合い、笑顔あふれる職場にする働き方改革



法人中期事業計画（3 ヲ年）	部門別中期事業計画（3 ヲ年）
----------------	-----------------



法人事業計画（単年度）	各拠点事業計画（単年度）
-------------	--------------



各部署事業計画（単年度）



新人事管理制度「あすわ ers」における職員個々の目標



職員行動指針 「私たちは、人として、福祉専門家として「共に生きる人」を目指し、利用者様と共に、地域と共に、職員と共に歩みます。」